

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A・B中学校)

定期考査対策【ステップアップウィーク】



定期テスト前に1週間実施し、苦手な教科について担当の教員に相談したり、解き方のコツを教えてもらったりすることができる。



少人数でゆっくりと学べること、苦手克服ができること、学習に限らず、悩みや不安を先生にじっくり相談できるため、生徒にとって貴重な時間となっている。

生徒会主催「七夕のお願い」イベント

季節を感じるイベントを全員で楽しもうと七夕飾りを作成し、生徒が書いた願い事を飾ることができる竹を生徒会が用意して実施した。

生徒は友達の願い事を見て「みんな私と同じようなことで悩んでいるんだ」、「コンクールで賞を取りたいという思いをみんなもっていてくれて嬉しい。」と、普段言葉にしない互いの思いを知ることができた。

こうした取組などもあり、生徒へのアンケート調査で9割以上の生徒が「みんなで何かを一緒にすることが楽しい」と回答した。



【取組2】(B中学校)

英語の授業では、生徒自身が学習目標を考えることができるように、具体的な達成目標を事前に提示することで、生徒自身が目標を決定し、その達成に向けて努力を重ねている。友達と比べることなく、自分に合ったペースで学習を進めることができた。また、学習に苦手意識のある生徒も自己の目標を設定することで達成感を得ることができるようになっている。

【取組3】(C中学校)

特別支援教育コーディネーターの教員を講師とする校内研修を行った。「生徒が不登校になったらどうすればよいか」、「不登校を未然に防ぐ授業内の工夫」、「関係機関との連携」等について作成した資料を参加した教員に説明し、今後に取り組む内容を協議した。校内委員会においても、各生徒の支援の進め方を検討し、支援の充実を図っている。

多様な学びの場を確保する取組

〔早期支援〕及び〔長期化への対応〕の取組の推進

支援会議（A中学校）

校内委員会（支援会議）を週に1回実施している。支援が必要な生徒を重点的に検討し、情報共有と対応の方向性を確認している。会議で使用する資料には、外部の関連機関からの情報や、これまでの指導や支援の経過などを記載し、生徒の状況をいつでも確認できるように工夫している。

アウトリーチによる支援（C中学校）

校内委員会で家庭訪問が必要な生徒を取り上げて、必要な支援策を検討した。定期的に家庭訪問を継続して実施し、当該生徒の生活リズムに合わせて訪問時間を調整し、面会ができるようにしている。こうして把握した生徒の様子を校内委員会で報告し、子ども家庭センター等の外部機関と情報共有を図った。

校内別室における支援（D中学校）

校内別室では、以下のような支援を実施している。

- ・生徒がその日の学習内容を計画する。
- ・計画に沿って教員や支援員が学習を支援する。
- ・個別学習スペース及びグループ学習スペースを併設している。
- ・学習の記録をファイルして職員室に保管し、教職員がいつでも閲覧できるようにしている。



デジタルを活用した支援（A中学校）

オンライン会議システムで授業や学校行事を配信

- ・教室には入りづらいが、授業は受けたい生徒や、学校行事に不安があり、練習などを見て見通しをもちたい生徒などを対象にしている。
- ・生徒が安心して授業や学校行事に参加するためのステップとなっている。

関係機関との連携（B中学校）

生徒についての個別の支援の充実を図るケース会議には、校長、養護教諭、担任等の関係する教員、不登校対応巡回教員、SC、SSW、訪問看護師が参加している。

教職員が同じ方向性で当該生徒を支援できるように情報共有と方針の確認を行った。

成 果

- ・全ての不登校生徒を校内外の関係機関につなぐことができている。
- ・居場所づくり、アウトリーチ支援等を通して教員と生徒とのつながりを強化できた。

課 題

- ・生活アンケートで、11.6%の生徒が悩みを十分に相談できないと回答しており、居場所づくり、きずなづくりを進める必要がある。